

平成 27 年高教研地学部地区合同研修会参加報告

- 1 日 時 平成 27 年 11 月 27 日 (金)
- 2 場 所 茨城大学 広域水圏環境科学教育研究センター
潮来市大生 1375
他 2 露頭 + 海岸
- 3 講 師 山口 直文先生
- 4 参 加 者 茨城県内高等学校地学教員等 21 名

5 内 容

9:20 現地着 受付

9:30 日程説明等 大変に残念ながら、強風のために船上観察中止

10:00～10:50 広域水圏環境科学教育研究センター周辺～北浦に掛けて微地形の観察。霞ヶ浦周辺では 2 段の湖岸段丘からなることを初めて知った。もっともその差は 2m 程度である。湖底にも湖棚と呼ばれる 2 段の地形があるとのこと。さらに、霞ヶ浦が北浦を含めた全体を指し、私が「霞ヶ浦」だと思っていたのは「西浦」であることを初めて知った。

11:20～12:20 潮来市島須の露頭 (採砂場跡) Stop1



上の写真の様にきれいなクロスラミナや生痕化石が見られた。クロスラミナははぎ取り標本を作って学校に持ち帰った。

13:30～14:30 鹿嶋市都賀の露頭 (採砂場) Stop2



大規模露頭である。Stop1 より粗粒の砂や礫が多く外洋性の堆積物である。一方、粘土が右の写真の様な場合もある。洪水による堆積物であるらしい。

14:50～15:50 鹿島市荒井付近の海岸

砂浜海岸の微地形の観察。内浜と外浜の違いについて講義を聴いた。ただ、鹿島灘は海岸浸食が激しいので、粗粒の砂を運び入れ、ヘッドランドを整備しているので自然の地形とは少々違う気がする。波打ち際には多くのゴミが打ち上げられており、辺り一帯ゴミに覆われている。



16:20 水圏環境科学教育研究センター帰着

16:30 解散

6 感想

今年は久しぶりに県東に分布する第四紀層のしっかりと観察することができた。教科書に載っているクロスラミナや生痕化石が鮮明に観察でき、教材として使える写真やはぎ取り標本を得ることができた。今回の巡検地は本校からバスで1時間30分程度のところなので、できれば希望者だけでも連れて行きたいと思う。